

# 小山工業高等専門学校

## 数理・データサイエンス・AI教育プログラム 自己点検評価

評価日時：2023年3月27日

会議名称：小山工業高等専門学校 点検評価委員会

開催場所：小山工業高等専門学校

目的：令和4年度の数理・データサイエンス・AI教育プログラムの自己点検評価

評価項目：文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル)」の審査項目の観点によるプログラムの評価

認定制度の審査項目	対象科目	評価
(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	<ul style="list-style-type: none"><li>工学基礎</li><li>科学技術倫理</li><li>コラボワーク I</li><li>コラボワーク II</li></ul>	A
(2) 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	<ul style="list-style-type: none"><li>工学基礎</li><li>コラボワーク I</li><li>コラボワーク II</li></ul>	A
(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	<ul style="list-style-type: none"><li>工学基礎</li><li>科学技術倫理</li><li>コラボワーク I</li><li>コラボワーク II</li></ul>	A
(4) 活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	<ul style="list-style-type: none"><li>工学基礎</li><li>コラボワーク I</li><li>コラボワーク II</li><li>コミュニケーションリテラシー I</li><li>コミュニケーションリテラシー II</li></ul>	S
(5) 実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	<ul style="list-style-type: none"><li>工学基礎</li><li>コラボワーク I</li><li>コラボワーク II</li><li>コミュニケーションリテラシー I</li><li>コミュニケーションリテラシー II</li></ul>	S

S：審査項目の内容を上回る成果を達成している。

A：審査項目の内容通りの成果を達成している。

B：審査項目の内容の成果を達成できていないが、達成に向けた対策を立案、着手できている。

C：審査項目の内容の成果を達成できず、達成に向けた対策が計画されていない。